中学校　岡山市長賞

沖縄の光新聞

岡山市・福田中3年

正保　晴花さん

沖縄の光新聞

岡山市立福田中学校
正保晴花
－特別号－

日本における唯一の地上戦となったのが、沖縄戦です。

沖縄戦とは

第二次世界大戦末期の1945年（昭和20）に沖縄と沖縄に属している周辺の島々で行われた日本とアメリカ、その連合国による3月下旬から7月までの戦いのことです。この戦いによる日本の死者、行方不明者数はアメリカとその連合軍のおよそ9倍にもなりました。

悲劇を生んだ地上戦

どのような戦いだったのか

沖縄戦は1945年3月26日に慶良間諸島にアメリカ軍が上陸したことから始まり、主な戦闘は沖縄本島で行われました。

しかし、アメリカ軍とその連合軍が沖縄本島に上陸する前にも沖縄や周辺の島々には、およそ40000発の砲弾が打ち込まれ、およそ1600機の船載機の攻撃がありました。

そして、アメリカとその連合軍が沖縄本土に上陸すると、最初の攻撃からおよそ3カ月で沖縄本土と周辺の島々は、アメリカとその連合軍によって占領されました。沖縄戦による日本側の死者・行方不明者数が18万8千136名に対し、アメリカとその連合国側は2万1945名と、日本側の9倍になりました。

戦場で人々を守ったガマ

ガマは、琉球石灰岩が浸食されてできた自然の洞窟で、沖縄戦では空襲や艦砲射撃から人々を守りました。

その一方で数々の悲劇を生んだ場所でもありました。

系数アブチラガマ

長さおよそ270m

ガマの中で、沖縄戦の際に系数集落の避難指定壕であったが、日本軍の陣地壕や倉庫として使用されました。そして、戦場が南下するにつれ南風原陸軍病院の分室となり、軍医や看護婦、ひめゆり学徒隊が看護活動を行っていました。

入壕体験

ガマの中は真っ暗で外からの光が1つも入らない場所でした。ここで、ひめゆり学徒隊が看護活動を行ったと知り驚きました。

ひめゆり学徒隊

ひめゆり学徒隊とは、沖縄県立第一高等女学校と沖縄県立女子師範学校の生徒で構成された女子学徒隊のことです。第一高等女学校の愛称が「乙姫」、沖縄県立女子師範学校女子部の愛称が「白百合」であったことから「ひめゆり学徒隊」と呼ばれるようになりました。生徒・教師24名が看護要員として動員されたが、そのうちの136名が犠牲となりました。ひめゆり学徒隊の主な仕事は、負傷兵の看護や治療の手伝いなどでした。その中でも、飯上げや水くみ、死体埋葬は壕の外に出ていかなければならなかったため命がけでした。

そして、暗く湿ったガマの中には血と膿と排泄物の悪臭が充満し、そのような環境の中でひめゆり学徒隊は、休む間もなく働き続けました。食事は、テニスボールくらいのおにぎりでしたが、だんだん小さくなってピンポン玉くらいのおにぎりでした。

女子学徒隊は1つではない

沖縄戦で、看護要員として働いた女子学徒隊は「ひめゆり学徒隊」だけではなく「白梅学徒隊」や「積徳学徒隊」など9つありました。女子学徒およそ500名のうちのおよそ200名が犠牲となりました。どの女子学徒も暗いガマの中で負傷兵の看護や治療の手伝いをしました。

全学徒隊の碑

引用元（沖縄戦「全学徒隊の碑」戦没者数の説明板を設置へ）タイムスポットプラスより

命どう宝とは

命どう宝の意味は、「命こそ宝」です。「お金やどんな所有物よりも大事なのは命である。失うと、二度と手に入らない」ということです。この言葉は、平和を心から願うこと、命を大切にすることの重要さを伝えています。

そして、私たち一人一人の命の尊さを伝え続けてきたこの言葉は、沖縄の人々に大切されてきたものであり、今でも大切にされています。

命は宝物

ひめゆり平和祈念資料館

伝えたい沖縄戦の体験

ひめゆり平和祈念資料館は、1989年6月23日にひめゆり同窓会によって設立されました。証を書きました。沖縄の言映像や当時の写真、遺品などの実物大模型からひめゆりの学徒隊が体験した沖縄戦の実相を知ることができます。展示物の中で一番に残っているのは、伝えに励んだ女子学徒ひめゆり学徒隊の方々の写真です。笑顔が輝き活き活きとしていました。

また、写真と共に一人ひとりの性格や当時の姿にについても書かれてあります。ひめゆりの光が途中で消えてしまったことを知ってほしいです。そして、後世に伝えていきます。

編集後記

修学旅行で沖縄を訪れ、資料館の見学や入壕体験を通して、戦争の恐ろしさと命の大切さについて学びました。

私が、戦争について学ぶ中で一番印象に残ったのが「ひめゆり学徒隊」でした。自分とほぼ変わらない年齢だった人たちが、戦争によって尊い命を奪われてしまったことは、私にとって衝撃的なことであり知らなくてはならない事実でした。

そこで、この新聞を読んで「ひめゆり学徒隊」について少しでも知ってほしいという願いからこの「沖縄の光新聞」を作成しました。

寸評

第２次世界大戦中の沖縄の悲劇について、修学旅行で学び感じたことを伝えています。犠牲となった女子学徒隊に関する詳しい記事が「命こそ宝」というメッセージに力を与えました。

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。